



# 「町田市緑の基本計画」改定を通じた多摩丘陵・里山回廊の確実な保全に向けた手法の検討

株式会社プレック研究所 栗原 崇・嶋原史也・鬼頭直美

町田市は東京の西南端に位置し、北部では、多摩丘陵に沿ってまとまった緑地が残され、農村集落や谷戸田とともに里山景観を形成し、市街地では、緑を基調とした良好な都市環境を形成しています。

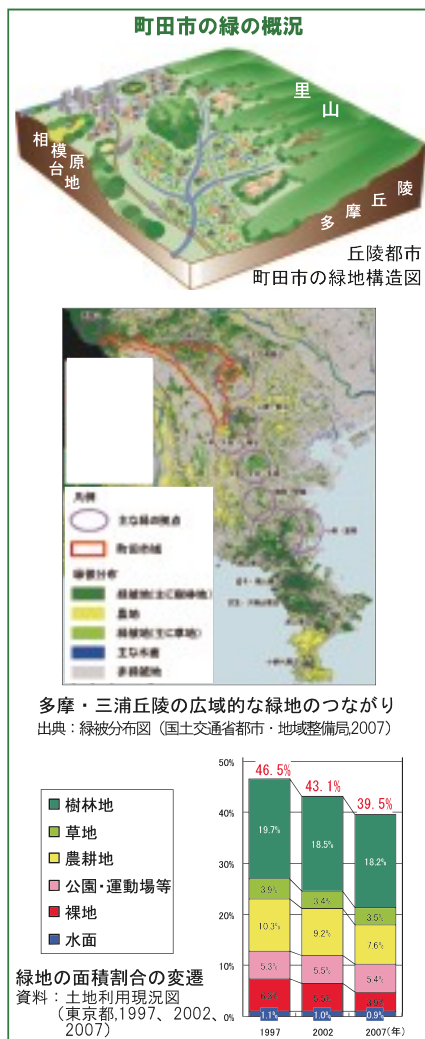
また、北部の丘陵は、高尾山から三浦半島にかけての多摩・三浦丘陵の緑地の一部であり、広域的な緑地ネットワークの“要”となっているため、この緑地を保全していくことが重要視されています。

しかし、1999年策定の「町田市緑の基本計画」に沿

って、緑地の配置や緑化の推進などの緑のまちづくりを進めてきましたが、宅地開発等によって緑地が減少しているのも現状です。

そこで、「緑の基本計画」を改定する中で、緑地保全に向けた市の姿勢と、そのための客観的な緑地評価を明確に打ち出し、具体性のある計画といたしました。

まず、「緑の将来像図」の18の拠点を「水と緑の拠点」として位置付け、拠点形成の方針として、各拠点の緑の担保性をできる限り高めるため、土地取得等による



## 作品概要

作品名：「町田市緑の基本計画」改定を通した多摩丘陵・里山回廊の確実な保全に向けた手法の検討  
 対象地：町田市  
 発注：町田市  
 事業目的：1999年に策定された「町田市緑の基本計画」を、緑の現状や緑を取り巻く社会情勢、関連法令などの変化を踏まえて改定する。  
 事業体制：株式会社ブレック研究所 都市・地域計画部、システム情報部（栗原崇・嶋原史也・鬼頭直美）  
 協働者等：  
 事業期間：平成21年8月～平成23年2月  
 事業規模：町田市全域

## 作品評

この作品は、町田市における「緑の基本計画」の改定において、緑地の確保と整備のための方策について、これまでにはない新たな提案を積極的に行ったものとして高く評価された。計画の中では、緑地に対する客観的な評価基準を設定し、GISを用いて、それぞれの緑地を評価し、それを公開して、重要な緑地に対する市民の認識を向上させることにより、その担保性を高めようとしている。また、緑地の評価はややとすると机上の論理になりがちであるが、ここではきわめて実務的で、有効に活用されることと思われる。それは、保全すべき重要な緑地の担保における実務的な面を考慮して、所有単位、取引単位となる筆単位で評価しているところである。さらに、このデータは緑の保全台帳としても活用されるなど、土地所有者に対する緑地の保全上の位置づけの説明にも使え、迅速かつ効果的でわかりやすいツールとして実用性を高く評価できる。なお、プレゼンテーションもわかりやすく、要点を的確に表現しており、これらについても高く評価された。

都市公園整備を予定する区域等を明示しています。

これにより、町田市の緑の保全に対する姿勢や取組みを市民に広く示すとともに、緑の確保に向けた取組みを後押しすることを狙いました。

また、市内の緑の価値をわかりやすく説明するために、「町田市の7つの緑の役割」や緑の安定度などの緑地の評価項目に沿って指標を設定し、GIS(地理情報システム)を用いて、客観的・定量的に緑地評価を行うとともに、総合的に高い評価を得た緑地を「重要な緑」とし、その中でも優先的に保全していく必要がある緑

地を「保全候補地」として明示しました。

さらに、評価の単位とした“筆”ごとの評価結果を容易に閲覧できる、緑の保全候補地に関する台帳(GISデータ)を作成しました。

また、“筆”は土地取引の基本単位であることから、緑地の保全要望などがあった際などに緑地の必要性をわかりやすく説明する資料が迅速に作成できるなど、緑地保全の好機を逃すことなく対応するためのツールとなることを期待しています。

